

ネットワーク

全北海道教職員組合 障教部通信 2013/No. 7

障害児学校の「設置基準」策定を求める署名取り組みについて



みなさん、全道各地での取り組み、ありがとうございます。道教組ではこれまで471筆の署名を全教本部を通じて国会へ送ることができました。(全国では57,981筆)道教組を経由せず、直接全教に送られた方もいると聞いています。この設置基準策定を求める取り組みは、全教障教部での最重点の取り組みとなっています。先日の国会では閉会したため、誓

願はされなかったのですが、今後も粘り強く次期国会に向けて取り組んでいくものです。また次の集約まで、各単組障教部での取り組みの継続をお願いします。(写真は、5/18に高教組障害児学校部との合同会議の後、合同で札幌大通りにて街頭署名を行ったものです。会議の合間だったため、20分ほどでしたが、50筆ほど集めることができました。)



全教障害児教育部総会に参加して

障教部常任委員 中川雅人

去る4月20日、21日と東京・全国教育文化会館(全教本部のビル)で行われました。初めての参加でしたが、ちょうど同じ飛行機で高教組:三田村障害児学校部長と同じになり、迷わず出席することができました。

会議では、今号のトップ記事にもある「設置基準を求める署名」への取り組みが一番の柱でした。その他に、

- 憲法をめぐる取り組み(96条は、国民が国や公務員に憲法を守らせる憲法)について、
 - 埼玉の学習交流集会の報告:1,500名の参加、若者の参加も多く、元気に成功できた。
 - 山口の(今年の)学習交流集会:山口と山口高で協力して準備している。本州の一番端です。どうぞひ来て。
 - 福島から、依然続く不安。雪解けと共に上がる放射線量。毎日給食の放射線量を計測。
 - 神奈川から、新設校に図書室がなかった。(県の)担当者の認識がなかった。
- 等々、多くの取り組みが報告されました。次は組織拡大について2つの発言です。中川としては、印象的な発言でした。

☆埼玉:対話することが大事。声を掛けることが大事。

☆滋賀:先輩教員は青年の側にいるだけでよい、聞かれたら答える、寄り添うだけでよい。

私は、特に滋賀の常任の先生の言葉が、「それでいいんだ・いや、いいのか?」と、ぐるぐる頭をめぐっています。

最後に、大阪教組の大島副部長のまとめです

- ・合理的配慮は、各校の工夫でといわれるが、教育委員会、行政の役割は?
- ・(設置基準について)これまでないがしろにしてきた行政の態度の問題。
- ・視覚的配慮、ユニバーサルデザイン等の手法だけでは個々に合わせた教育はできない。
- ・モデルが見えにくい今、我々ベテランができることは。保護者の気持ちに寄り添い切れているか。福祉と病院をつなぐことも大事な専門性。ベテランが輝く姿を見せることが大事。



全石狩札幌の障害児を取り巻く課題

全石狩札幌教職員組合 中川雅人

全石狩札幌は、道立学校部という組織があり、そこに拓北養護学校、白樺高等養護学校、星置養護学校に勤めている7名で構成されています。ですが、組織としての活動はできていないのが現状です。（全教石狩）合同の会議へ行ける方が参加して、小中学校の先生方と情報の共有、意見交換をすることをしています。

取り組みは少ないのですが、抱える課題は大きいです。例えば、

- ①過密、狭隘化：高等養護学校は増えたけど、義務（小中）併設（高）は変わらず。
- ②分教室：星置養護紅葉山校舎（分教室）、管理職がいなくなる。（分校じゃないので）教員が少なく、養教、介護員、事務は臨時のみ。
- ③スクールバス：介護員が臨時、又はバス会社になる？臨時の介護員さんはシニアの方で、子どもに対応できない。スクールバスの中に学校職員がいなくていいの？（昨年札幌の1台は職員が乗らず、バス会社の添乗員だけの時があった？。実習助手、介護員の新規の正採用がないため、今後は民間委託を考えているのか？4月の全国総会で、他府県で学校職員が乗らないスクールバスが報告されている。やはり、引き継ぎ不足や臨時職員が対応できずトラブルが出ているもよう）

他にもまだまだありますが、地の利を生かして、フォーラムや総会に参加して、多くのみなさんと課題整理して、取り組みのヒントを得ることができればと思っています。

2013年度障害児フォーラムについて (沢山の方に呼びかけてください!!)

道教組障教部部長 渡邊 悌

毎年2月の第2土日に高教組障害児学校部などの関係機関と実行委員会を作り、障害児フォーラムを開催しています。道教組障教部が高教組お任せ状態から抜け出し、積極的に運営に関わり始めたのは、2年前のことです。昨年からは、総会の日程もフォーラムの次の日に変更し、組合員が参加しやすい環境にしてきました。

ただ、昨年の参加総数は47人で、道教組からは10名前後の参加に終わり、広がりが見られない状況です。組合員減少や特別支援教育の中で「スキル教育」「しつけ教育」が進む中、「子どもの気持ちにより添った教育実践」を現場で進めていく上では、「このままではいけない」と危機意識を持ち、今年度は一般市民を含めた300名規模のフォーラムにしようと思気込み、計画を進めています。人を集めるためには、「魅力的な講師が大切」ということで、今年は、**大阪大学大学院 人間科学研究科教授の小野田正利先生に「親の理不尽要求」**について講演をしていただくことになりました。問題は、予算確保です。300人集めないと、大赤字。「教育現場を変えていく」と「赤字を出さない運営」のためにも、多くの参加者を集めていただきたいと思います。詳細は後日お知らせします。

今年度は2014年2月8日(土)に行きます。今から予定を明けておいてください。次の日は総会です。

道教組障教部年間計画予定

5/18	道高教組との第1回合同常任委員会と道教組第1回常任委員会
7/6	道高教組との第2回合同常任委員会と道教組第2回常任委員会
1学期中	通信「ネットワーク」発行
8/3～4	寄宿舍学習交流集会 京都（竹内）
8/16～18	教育の集い
9/14～15	全国障害児学級担当者会議（田代）
11/2～3	合同教研
11/3	障教部全国代表者会議（渡邊）
1/11～13	全国障害児学級・学校学習交流集会 IN 山口
2/8	障害児フォーラム
2/9	道教組障教部総会


今年度の学習交流集会は「やまぐち」です。山口のみなさんが成功させようと、すでに何度も会議をもって検討されています。できるだけ多くの参加者を募ります。関心のある方は、各単組の障教部窓口を通じて、連絡をください。

第13回 全国障害児学級&学校

学習交流集会

おいでませ

in やまぐち



みんなで学校をつくろう

「恋人に逢いに行くようにいそいそと通っていきける」、学校がそんな場所ならいいですね。

子どもたちも、そして教職員も毎日いそいそと通える、そんな学校をみんなで創り出しましょう。

子どもの瞳輝かせるために
だまされない力を
平和と憲法を守る力を
父母・同僚と手をつなぐ力を
子どもたちと、そして同僚と心通い合わせる教育をみんなで学びあい、確かめ合ひましょう。


2014年1月11日（土）～13日（月）

12日全体会／山口市湯田 ホテルニュータナカ

12・13日／湯田近辺の共済会館など（徒歩可）

参加費 3,000円（1日のみ2,000円）

【集会概要】11日（土）PM／全体集会・全体講演 タカノ大交流会
12日（日）AM／「てんこ盛り講座×15講座」と「文化パザール」
PM／「基礎講座×2講座」「旬の実践分科会×15分科会」
13日（月）AM／「教育フォーラム×3会場予定」



全体会記念講演
茂木俊彦先生
（予定）

主催 全日本教職員組合障害児教育部・教組共闘・現地実行委員会

問合せ先 全教障害児教育部 03-5211-0123 現地 083-922-1214（山口県教組内）

みんなで学ぶ、つながって、笑顔でつくろう障害児教育の未来

○次の「教組共闘連絡会ニュース」で、設置基準策定について詳しく説明されています。ご覧になっていない方は、ご一読ください。

教組共闘連絡会ニュース

2013年度 第1号
6月28日(金)

教育の危機を打開し、子どもと教育・くらしを守る教職員組合共同闘争推進連絡会

カーテン教室やプレハブ校舎、いまずぐ解決を 障害児学校の設置基準策定を求め、署名提出

「設置基準策定を求める運動交流集会」で57981筆、提出(6/13)

全国の障害児学校の深刻な過大・過密状態を解消するために、3月からとりくまれてきた「障害児学校の設置基準策定を求める請願署名」の提出行動が6月13日に、衆議院議員会館で行われました。集約された請願署名は57,981筆で、集会に参加した宮本岳志(日本共産党)、青柳陽一郎(みんなの党)両議員をはじめ、紹介議員を引き受けて頂いた20名を超える衆・参両院議員に託しました。



全国的に障害児学校の児童・生徒数が増加し、在籍者数はこの10年間で33,521人を超えています(2012年度文科省調査)。一方、学校建設はほとんど進まず、教室不足は全国で4,633教室(2012年度文科省調査)、150人規模の学校に300人以上の児童・生徒が押し込まれるなど、子どもたちの学ぶ権利を奪い、いのちと健康をも脅かしています。この原因は、教育予算を削減している政府・自治体の姿勢とともに、障害児学校の設置基準がないことにあります。

昨年11月、障害児学校の保護者や関係者、教職員が「障害児学校の設置基準策定を求め、豊かな障害児教育の実現をめざす会」を結成し、3月から、上記の請願署名にとりくんできました。この間、NHKニュース「おはよう日本」などに、この問題は大きく取り上げられ、市民から「知らなかった」「ぜひ署名に協力させてほしい」という電話やメールが会や全教・教組共闘連絡会に届いています。

この日11時から行われた、全教・教組共闘「設置基準策定を求める運動交流集会」には、福井県や長野県の教組共闘組織の代表も含めて33人が参加しました。北村佳久全教委委員長・教組共闘代表幹事は「父母・教職員が力を合わせて大きな運動をつくり、文科省に設置基準策定を決断させていこう」と開会あいさつ。吉田智明福井高教組委員長・教組共闘代表幹事は、福井県内の障害児学校の過密状態を報告し、「過大・過密は教職員の労働条件悪化も招いている。この運動に勇気づけられている。展望が見えてくる」と発言しました。また、坂戸千明長野障教組委員長は、「短期間に6100筆を長野でも集めた。父母と共同した運動の中で、様々なドラマが展開された。」と報告しました。

続いて12時から行われた、設置基準策定を求める会主催の提出集会では、会の副会長で、子どもを神奈川県内の障害児学校に通学させている鳥居順子さんが「過大・過密状態は子どもたちにとって大変危険な状態。保護者と教職員で力を合わせて運動をしてきました。ぜひ設置基準策定を」と訴えました。

当日時点で紹介議員を引き受けて頂いたのは、自民党5名、民主党4名、日本共産党8名、みんなの党2名、みどりの風1名、無所属1名の21名でした。今国会は閉会して請願は採択されませんが、引き続き、運動を推進しましょう。